

AAC

AICHI ARTS CENTER

アートを読む、あいちを読む

2016/vol. 88
Summer

愛知芸術文化センター 情報誌

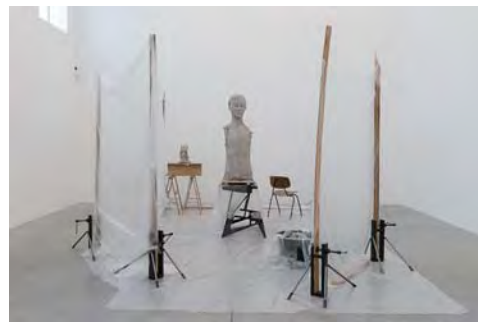
あいちの熱いアートの旅



Visual Arts

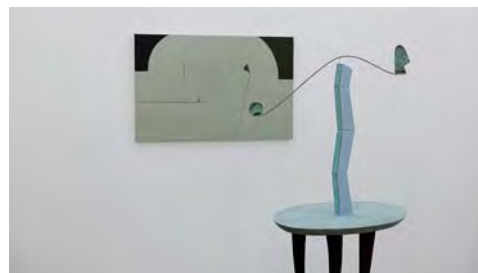
現代美術

あいちトリエンナーレ最大の作品数を占めるのは
現代美術の国際展。
絵画、彫刻、写真、インスタレーション……、
多種多様な表現の中に人類の過去・現在・未来が見えてくる!



《Room with Unfired Clay Figure》2014
Photo: Peter Cox
©Mark Manders/Courtesy of Zeno X Gallery, Antwerp

マーク・マンダース
「創作者としてのアトリエを再現した部屋には、物として人や動物の彫刻が配置されます。動き回る生き物と動かない彫刻は反対の性質に思われますが、彫刻は死体を表現しているわけじゃないですね。生きていたものを、生きていたものをどう無機質の素材で表現するのか。形として再現することを通して両者の関係が浮かび上がり、生命を与える場所にもなっていくんです」



《castaway》(平面)2015
《horizon person》(立体)2015 Courtesy of the artist

森北伸
「芸文センター地下2階のフォーラムに、テントのようで、そしてトートেম型の小屋(サライ)が登場します。今回のテーマとなる旅する人や移動する人に見えている心象風景が動く立体として登場するんです」



《Fuga (Flight)》展示風景
A Gentil Carioca, リオデジャネイロ 2008
Photo: Laura Lima / Ana Torres

ラウラ・リマ
「鳥小屋の中に鳥のための風景画を作って、鳥が風景を学ぶという作品。そこに人間は鑑賞者として入っていくことで新しい関係が生まれます」

チーフ・キュレーター 拝野雅彦からメッセージ

鳥がたくさん登場するんですよ。メッセンジャーや渡り鳥のイメージは旅に結びつき、テーマに文化人類学の視点があるので人間を相対化するのに動物や鳥のモチーフが多くなったとも思いますが、地面にいる人間と空を舞う鳥は対照的だけどつながっているんでしょね。ところで愛知は花と同様、鳥にも強い。名古屋コーチンはもちろん、豊橋はウズラの卵の一大生産地。鳥は大事なんです、トリエンナーレだし(笑)。全体に能天気で楽園的に映るかもしれませんが、地球の持つ光や色を見直したい。だから「虹のキャラヴァンサライ」と掲げました。地上にサライあれば、天上には虹の色があり鳥がいるという想いです。



百花繚乱の作品に
光と色と希望が
あふれる

旅や移動を想起させる。虹のキャラヴァンサライ。がテーマゆえ、あいちトリエンナーレ2016は水平方向に拡大? 会場も増え、過去2回をはるかに超えた規模で開催される。現代美術もオランダのマーク・マンダースやブラジルのラウラ・リマ、愛知ゆかりの大巻伸嗣、森北伸ほか85組が参加。欧米・南米・中東・アジアなど世界中の作品が一堂に会する。テーマから発生して、光や色、音を感じる作品が多く、花の生産地としても名高い愛知を現代アートの百花繚乱で彩る。拝野雅彦チーフ・キュレーターによる作品紹介も面白く、明るい希望に満ちた国際芸術祭になる予感!



《Echoes-Infinity》
「MOMENT AND ETERNITY」
Third Floor-Hermès Singapore 2012
Created with the support of the Fondation d'entreprise Hermès for Third-Floor Hermès Gallery -Singapore 2012.

大巻伸嗣
「美術館の展示室で展開する新作は、色によって虹の世界や花の世界を表現します。花のかたち10種類以上で空間を構成。パラダイスの到達点としてもスペクタクルなものになりますよ。この花が街中に広がっていく企画も進行中なので楽しみに」



《栃木県益子町地質調査 北郷谷》2012 Courtesy of the artist

味岡 伸太郎
「県境の土を調査的に展示して、愛知の土のカラーチャートを見せませす。大地の色はカラフルではないけれど、土地のカラーチャート。陶芸の発展にもつながった愛知の豊かな土の財産を知ると同時に、人類が土の色に関心を持って創造してきたことの原点も感じられます」



港千尋 Chibihiro Minato

写真家、著述家。多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授。文明論的テーマをもちつつ、研究、作品制作、展覧会、出版、キュレーションなどで幅広く活動。2006年に釜山ビエンナーレ共同キュレーターを、2012年に台北ビエンナーレ共同キュレーターを務める。2007年にはヴェネツィアビエンナーレ国際美術展日本館のコミッショナーも務めた。

開幕を目前に控え、
あいちトリエンナーレを大特集。
この国際芸術祭の主要部門を
担当者のコメントとともにご紹介します。
まずは、全体をまとめる港千尋
芸術監督のインタビュー!

港千尋 芸術監督 スペシャルインタビュー

あいちトリエンナーレ2016
虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅
8月11日(木・祝)~10月23日(日) [74日間]

「あいちトリエンナーレ2016のラインアップを見ると、他の国際芸術祭とはまた違った新たなアーティストとの出会いがありそうです。『ブラジル、トルコのキュレーターが参加してくれたことは大きいですね。中南米、中近東の今いちばん新しいアーティストを迎えられますから。テーマが意味する『人間の旅』の旅感を受け止めていただけでは不十分です。実際すでにアーティストは精力的に県内を回り、愛知を旅しています。私自身も昨年、(奥三河地方の民俗芸能の)花祭の映像を撮影したり、常滑の地層を視察に行ったりしましたし、創造の旅は始まっているんです」

「あいちトリエンナーレの特色であるパフォーミングアーツについてはいかがですか?」

「こちらはラインアップが確定して、各アーティストは制作段階に入っています。舞台芸術は、生身の人間がある時間ある場所に必ずしないと成り立たないので、ビジュアルアーツと違った苦労があります。個人的にも僕は舞台芸術が好きなので、早め早めに力を合わせて推し進めてきましたから、かなり面白い舞台をご覧いただけると思っています」

「さらに国際芸術祭として異彩を放っているのがプロデュースオペラです。」

「2010年の第1回を拝見した時、プログラムにオペラもあると知って

コラムプロジェクト

あいちトリエンナーレ2016では「コラムプロジェクト」と題して展示、レクチャー、ワークショップなど小企画をたくさん展開する。特に「トランスディメンション-イメージの未来形」は、港監督とも関係の深い写真表現を探ることで話題。赤石隆明、ルーカス・ブラロック、勝又公仁彦、小山泰介+名和晃平、横田大輔らが参加する。



横田大輔 《Matter》展示風景 「Trans-Tokyo / Trans-Photo」
集美×アルル国際フォトフェスティバル、廈門、中国 2015
©Daisuke Yokota, Courtesy of G/P gallery, Tokyo

「変わってるな」とは思いました(笑)。それが現場に入ってみると納得できるんですよ。音楽や美術、演劇の要素の詰まった総合芸術ですから。しかも今回の『魔笛』は勅使川原三郎さんが演出なさるので、他で上演されるオペラとは違った、最先端の舞台になりますよ」

「あらためて、あいちトリエンナーレをどのようにお感じですか?」

「現代美術(ビジュアルアーツ)、舞台芸術(パフォーミングアーツ)/プロデュースオペラ)に加え、映像プログラムもありですね。この3つを総合的に展開する芸術祭は世界的に見て稀で、なかなかできない。各部門だけでもフェスティバルとして成立するほどの内容ですから。それを実現している、あいちの体制はドリームチームですよ」

Check!



あいちトリエンナーレ2016国際展のチケットが発売になりました! 券種は大きく分けて普通チケットとフリーパスの2種類。特にフリーパスは、全ての会場にいつでも何度でも入ることができてオトクですよ!! 世界のアートと一緒に愛知を旅してくださいね。(あいちトリエンナーレ広報担当: 宮川祐一)

Educational Programs

普及・教育

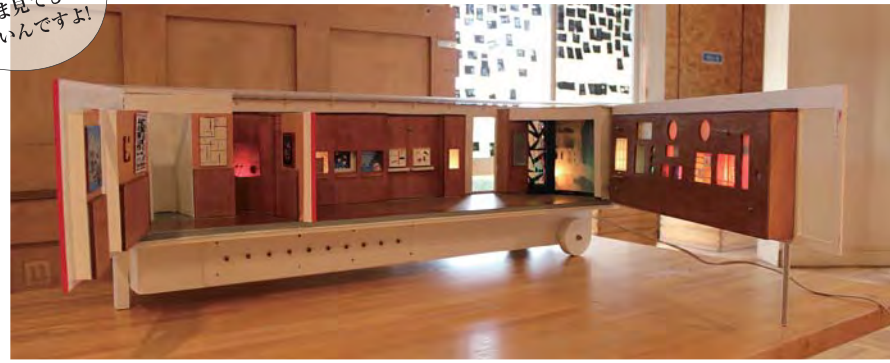
あいちトリエンナーレではアートと教育と普及の活動にも力を注いでいる。大切になるのは、シェア=共有。子どもはもとより大人も楽しめるプログラムの数々を体験あれ!



「タミコの活動や業績は先駆的で、いま見ても面白いんですよ!」



ビクトル・タミコが構想した「アートキャラバン」の模型を説明する伊藤優子。左は同じくエデュケーターの松村淳子。



所蔵: The Victor D'Amico Institute of Art



「平面系デザイン/糸」のアーティスト・チング・トイのひつ。ボタンを押すとストロボライトが光り、その向こうに張られたガラスが前にあるものを映し出す。

「環境ブリス」と呼ばれるアーティスト・チング・トイのひつ。ボタンを押すとストロボライトが光り、その向こうに張られたガラスが前にあるものを映し出す。



「環境ブリス」と呼ばれるアーティスト・チング・トイのひつ。ボタンを押すとストロボライトが光り、その向こうに張られたガラスが前にあるものを映し出す。

普及・教育部門では面白い柱が2本用意された。まず「タミコルーム」は、ニューヨーク近代美術館の初代教育部長ビクトル・タミコの理念を受け継ぐ教育プログラム。タミコはアメリカの子どもたちに等しく美術体験の場を提供するため、「トレーラー」で巡回する「アートキャラバン」を構想した。それは実現しなかったのだが、「こどもの城」元専門スタッフ前田ちま子が米国調査中に発見した図面をもとに高橋士郎(当時多摩美術大学教授/あいちトリエンナーレ2016参加作家)に復元を依頼し、1995年に重要な装置「アート・チング・トイ」を実現。トレーラーの模型はタミコ夫人が制作した物の複製だ。それらが現在には愛知県児童総合センターで保管されており、タミコルームではアート・チング・トイ19点の設置とトレーラーの模型展示が実現する。

タミコルームとキャラヴァンファクトリーを拠点に老若男女の感覚を、意識を、価値観を刺激する!

普及・教育部門では面白い柱が2本用意された。まず「タミコルーム」は、ニューヨーク近代美術館の初代教育部長ビクトル・タミコの理念を受け継ぐ教育プログラム。タミコはアメリカの子どもたちに等しく美術体験の場を提供するため、「トレーラー」で巡回する「アートキャラバン」を構想した。それは実現しなかったのだが、「こどもの城」元専門スタッフ前田ちま子が米国調査中に発見した図面をもとに高橋士郎(当時多摩美術大学教授/あいちトリエンナーレ2016参加作家)に復元を依頼し、1995年に重要な装置「アート・チング・トイ」を実現。トレーラーの模型はタミコ夫人が制作した物の複製だ。それらが現在には愛知県児童総合センターで保管されており、タミコルームではアート・チング・トイ19点の設置とトレーラーの模型展示が実現する。

もうひとつの「キャラヴァンファクトリー」は創意工夫をテーマに、美術芸術が生まれる以前のつくる。行為を体験するプログラム。計画的な生産ではなく「目の前にある物と道具を使って、工夫して何かを手で創ること、専門家もアマチュアも大人も子どももみんな並びで「ものづくり」に触れられる。誰もが楽しめる空間演出も見どころだ。

タミコルーム、キャラヴァンファクトリーは愛知芸術文化センター12階アートスペースにて展開。その他の会場でもガイドツアーやトークなどが充実する。より作品を楽しめるユニークな鑑賞支援ツールの貸し出しも企画なので、美術の勉強なんて思わず気軽ににお出掛けを!

チーフ・エデュケーター 伊藤優子からメッセージ

キャラヴァンファクトリーでは、例えば無作為の言葉3つを手に入れて、それをキーワードにグループで何かを作るんですよ。その他にも、今回のものづくりプロジェクト「ツクロッカ」もありますよ。これは制作のプロセスを公開するところに大きな意味がある。つまり情報や知識のシェア、共有ですね。キャラヴァンファクトリーも通じる部分があって、ものづくりを核として人が集まり、コミュニケーションをはかり、意見を出し合い、また他者の考えも聞いて、新しい価値観を得る。そうして、そのような場がテーマに掲げられた「サライ」につながってほしいなと思っています。



※サライ...ベルシア語で【隊商宿】のこと。旅の疲れを癒す休息所であり、様々な文化が往来する中継地や交差点の意味合いも。



アート・チング・トイやアートキャラバンの模型を保管している愛知県児童総合センター(愛・地球博記念公園内)では、あいちトリエンナーレ2016開幕に向けて修繕が行われた。

Performing Arts

パフォーミングアーツ/プロデュースオペラ

あいちトリエンナーレ最大の特徴とも言えるのがパフォーミングアーツの充実。ダンスやオペラの既成概念を大きく揺るがすジャンル横断的なステージが観客の五感を刺激する!



ダニ・リマ「Little collection of everything」2013
Photo: Renato Mangolin Courtesy of the artist

観る人ごとに楽しめるカラフルな作品が地球の裏側からやってくる! ブラジルのリオデジャネイロからダンサー・振付家のダニ・リマがカンパニーを率いて初来日。子どもにもオスズの「Little collection of everything」を上演する。愛知は日系ブラジル人の人口が日本一なのに案外知らないことだらけ。今回は静岡出身の日系メンバー・清水悟が言葉の問題も含め双方を有機的につないでくれる。ちなみに、同国のダンスシーンからはシルク・ドゥ・ソレイユ「オーヴオ」やオリンピックの演出で話題のデボラ・コルカーなども輩出されているので、ブラジルのダンスの現在を知るのにも絶好の場に。

キュレーター 唐津絵理からメッセージ

人間のしぐさを多国籍のダンサーで調査研究し、作品に取り入れていくダニ・リマさん。その文化人類学的な振付手法は、トリエンナーレのテーマにもつながりますね。ある道具を様々な角度から見て、より面白い見え方を探すというこの公演の試みは、翻弄された歴史の中で、物事を柔軟に発想していく術を身につけてきた、ブラジルの社会的背景と関連付けられる。非常に深い思想を持っていないが、子どもでも楽しめる懐の深い作品ですよ。



サーカスを出発点に、ダンス・カンパニー創設、大学でジャーナリズムを専攻と、異色の経歴でも注目のリマ。「Little collection of everything」には、たくさんのお物が散乱!? ダンサーたちは、ひとつひとつの見え方を問い直していく……。言葉がわからなくてもOK。観る人ごとに感じ方、楽しみ方が変わる多面体の作品だ。

ダニ・リマ
「Little collection of everything」
8月11日(木・祝)~14日(日)
愛知県芸術劇場小ホール
8月17日(水)・18日(木)
穂の国とよはし芸術劇場PLAT
アートスペース
チケット発売日: 6月25日(土)



勅使川原 三郎
©Norifumi Inagaki

こんな「魔笛」観たことない! 人気オペラを鬼才が大胆に演出する 国際芸術祭では珍しいオペラ。あいちトリエンナーレ2016では世界屈指の人気演出、モーツァルトの「魔笛」が上演される。ただし、現代アートの祭典だけに他では観られない趣向が見モノ。その立役者が、国際的ダンサー! 勅使川原三郎だ。昨年、仏シヤンゼリゼ劇場から委託されたオペラ作品「ソラリス」でも好評を得た勅使川原。演出・振付はもろろん美術や照明、衣裳まで手掛け、どんな舞台も勅使川原色に染め上げる。今回は、自身のカンパニーのダンサー・佐東利穂と東京バレエ団合わせて十数人が出演する前代未聞の「魔笛」に! 指揮にはイタリアの若き気鋭ガエタノ・デスピノーサ

プロデューサー 水野学からメッセージ

まず「魔笛」にないダンスの要素が入ることで、勅使川原さんらしいオペラになりますよ。未知数ですが、単なる新しさとは違いますから、期待も膨らみます。人間の内面性を描くことが勅使川原作品の特徴のひとつだと思うのですが、「魔笛」では人間と何か大きなもの……例えば神との関係や、人とは何かという問いが浮かび上がるのではないのでしょうか。「魔笛」の持つ観念的・哲学的な部分は、勅使川原さんの作風に合うと予感しています。



あいちトリエンナーレ2016
プロデュースオペラ
W.A.モーツァルト作曲『魔笛』
(全2幕・ドイツ語上演・日本語字幕付き・台詞は日本語)
9月17日(土)・19日(月・祝)
愛知県芸術劇場大ホール
指揮:ガエタノ・デスピノーサ
演出・装置・照明・衣裳:勅使川原 三郎

Check! パフォーミングアーツ参加作家の山田うんは、奥三河の芸能行事「花祭」をモチーフにした新作を準備中! 6月11日(日)には「山田うんとまなぶ花祭」と題したトリエンナーレスクールを開催します。詳細はトリエンナーレ公式ウェブサイトにて! (あいちトリエンナーレパフォーミングアーツ担当: 東出太郎)



～表現を支える現場レポート～

あいちトリエンナーレ2016は前回よりエリアを拡大。岡崎、豊橋を拠点に三河地区での展開をますます充実させている。そんなおり、相乗効果をもたらしてくれそうなカルチャースポットが蒲郡にオープン！ラグーナテンボスの主要施設に当たるラグナシアに「アートシアター」が誕生したのだ。そこで、この新劇場に潜入。経緯や今後について取材した。



三河の誇るレジャースポットに 新劇場オープン！

ヨッピーングモールや飲食店、ホテルなどで構成される複合リゾート「ラグーナテンボス」の目玉と言えは「ラグナシア」。このテーマパークに「ラグーナテンボス アートシアター」が誕生。こけら落とし公演として、長崎のハウスステンボスを拠点に活躍するハウスステンボス歌劇団のチーム心（ハート）が「KINGS」を開幕した。広報担当・小出充訓は4月某日、初日目前の新劇場を訪ねた。ラグナシアのグループリーダー・大脇徹也さん、歌劇団担当の沖花名（おき・はるな）さんに話をうかがった。「ラグナシアは、アニメイベントやプールで小さなお子様を含むご家族連れに、プロジェクトシンマッピングやイルミネーションで若い世代に親しんでいただいています。2年配の方もゆつくり楽しめるショーがないかと模索するうち、歌劇が浮かび上がってきたんです。幸い、長崎での成功もありましたので、じゃあ、歌劇をやるなら劇場も建てましょう」といふことになって……（大脇さん）

216席の空間に対して、階段付きの非常に広いステージ。ハウスステンボス歌劇団がメインコンテンツであることや、他のイベントの可能性も考慮して、一般的な劇場の比率とは異なる設計になったという。天井も高く「例えばトランポリンのショーなんかでもできますよ」と大脇さん。さすが、壁に車を走らせた（！）カーアクシオンマッピングや花火などを演出するラグナシアの立役者、発想が柔軟だ。一方、沖さんは素朴な愛情が原動力！

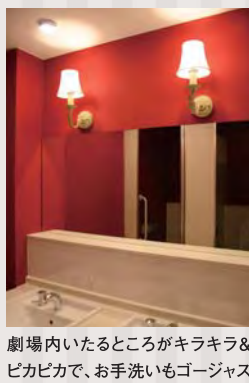
「もともと歌劇が好きで担当を任せました。訪日外国人向けの営業も兼任しているので、台湾・東京・蒲郡を行ったり来たりしています（笑）。ハウスステンボス歌劇団には3チームあり、チーム心はいちばん新しいんですよ。約50分のステージを連日2回公演。演目は3〜4カ月で替わる予定です。同じ演目の期間中でも約20名いるメンバーの役替えがありますか

ら、何度も足を運んでいただければ嬉しいですね。また、握手会や写真撮影会なども企画して、よりライブ感のある趣向を凝らしていきたいですよ（沖さん）

愛知はもちろん東海地区でも、女性による歌劇のロングランは初の試み。そしてハードの面でもソフトの面でも、鍵となるのは親密さのようだ。テーマパークならではのアートとエンタテインメントの融合に、劇場の新たな可能性を感じる機会となった。

椅子の座り心地や舞台までの距離感を体感させてもらう
広報・小出

えっ!?
この距離で
歌劇が!



劇場内いたるところがキラキラ&ピカピカで、お手洗いや更衣室



俳優にとって命の光!? ピンスポットも2台体制です!!



アートシアター手前の大きな橋掛かりが来場者を異空間へと誘う。6月24日（金）までは一帯にイルミネーションが点灯。隣接する「フラワーラグーン」では花のアートが楽しめ、新エリア全体に芸術的演出が施されている。



左から沖花名さん、大脇徹也さん



ラグーナテンボス アートシアター

住所：蒲郡市海陽町2-3
(ラグーナテンボス ラグナシア園内)
交通：JR「蒲郡」駅より無料シャトルバス
約15分
※休演日あり。

詳しくは [ラグーナテンボス](#)

LAGUNA TEN BOSCH ART THEATER





左から副芸術監督でもある舞踊家の井関佐和子、芸術監督の金森穰、劇作家・演出家の平田オリザ、Noism1の中川賢と石原悠子

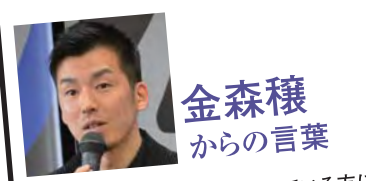
もの言わぬ人、もの言う人…… 舞踊と演劇で現代を鋭く映す

新潟から世界に舞踊芸術を発信するNoism(ノイズム)が、劇的舞踊シリーズ最新作「ラ・バヤデール―幻の国」公演に先駆けて製作発表を行った。芸術監督・金森穰ほかカンパニーの面々はもちろん、原作のバレエを翻案した平田オリザも登場。驚くべき内容が明らかに！

バレエ「バヤデール」は、舞姫ニキヤと戦士ソロルの関係を軸に、ニキヤに横恋慕する大僧正や王ラジャが絡む悲恋の物語。インドを舞台にした同作を平田は、ある幻の国を舞台とする民族対立の物語に翻案した。これには金森も「お願いしてよかった。素晴らしい台本」と喜ぶ。



Noism1×Noism2劇的舞踊「カルメン」(2016)
Photo: 篠山紀信



金森穰からの言葉

バレエの「バヤデール」を知っている方には全く別の作品として観ただけはいいのですが、何が何に置き換えられているか考えていただければ作品の本質にも迫れると思います。いま我々の生きている社会がどのようなもので、どのような歴史を経てこうなっているのか。「ある幻の国」を通して観客と共感、共有していければいいですね。幻の国の設定は歴史と不可分、バレエでもニキヤが死んだ後、ソロルが影の王国で彼女と出会うことから、「記憶と死者」や歴史性をテーマととらえています。消えてなくなるものをどう残していくか、語り継いでいくかということとは、舞台芸術の本質にも触れること。今という時代と我々や舞台芸術の存在意義とを、密接に関わるものとして提示したいですね。



平田オリザの言葉

金森さんの、いろいろなことに挑戦する時に決して奇をてらわず真正面からぶつかっていく勇気を素晴らしいと思っています。欧州の国立劇場や国際的フェスティバルでは、社会において問題になっていることや、それについて考える題材を提供することが公共性だという認識がありますよね。金森さんとも、現代の私たちが抱える問題の根源はどこにあるのか考えられるようにしたいと話しました。「バヤデール」はインドのカースト制が背景にあります。今回それを民族対立の問題に置き換えています。どの台詞を言うか、どれを言わないかは金森さんに任せていますが、ただお渡ししただけの台本ではないので、今後も初日に向けてお手伝いしながら一緒に作っていただければいいと思っています。



最強布陣で制作

空間は建築家の田根剛、衣裳はISSEY MIYAKEの宮前義之、木工美術は近藤正樹、音楽の笠松泰洋と鋭が集结。オリジナル曲も挿入する。金森いわく「ミンクスの原曲は西洋のものなので、東洋の要素を加えてアジアの楽器を用いた「東から吹く風のような曲」をお願いした。そこで洋の東西が交わり、幻の国が立ち上がれば……。空間構成など含め抽象度も重視しています」。なお、俳優はSPAC-静岡岡県舞台芸術センターから3名が登場する。

芸術は紳士淑女のたしなみ オトナの上品な 栄デートをご提案

「THE オルガンNIGHT」は、仕事帰りで気軽にパイプオルガンの音色を楽しめるよう企画されたコンサート。少し遅めの開演、45分というほどよい時間、手頃な料金設定で好評だ。スポーツや習い事、グルメ……と、娯楽が多く余暇のライフスタイルが様々な現代。非日常空間で生演奏を体感するクラシックコンサートも、粋な大人の趣味としてオススメしたい。愛知県芸術劇場は栄のド真ん中でアクセスも良



好なので、デートで立ち寄ればちょうど上級の演出にもなるはず！

なお、今年度はオルガンコンサートが季節ごとに公演され、4回のうちのトップバッターが本公演。すべてを通じてオルガン曲の代名詞的存在バッハを取り上げる予定なので、以降のコンサートの序章にもパイプオルガン入門にもふさわしいプログラムとなっている。



Photo: 中川幸作

翌日に開催される「THE オルガンDAY」の子ども向けコース同様、終演後にはパイプオルガンを間近で見られる見学会あり

The Organ Night 2016

昨年のコンサート風景
Photo: 中川幸作

THE オルガンNIGHT 2016を より楽しむための 知っておきたい 3つのポイント

フランス曲の洗練された美 ピアソラの官能的な美



オルガンにはフランスの曲が多く、今回の国を代表するオルガンリスト作曲家ヴェルヌの「オルガン交響曲 第一番より終楽章」が演奏される。芸術大団フランスの音楽には洗練された美を感じるだろう。その他にもCMなどでよく使われるガーランドの「イン・ザ・ムード」は、パイプオルガンで聴いても洒落た感じ。そしてアルゼンチンの作曲家、バンドネオン奏者ピアソラの「フーガと神秘」には官能的な美があふれ、心も体も熱くなる。



J.S. Bach

王道！バッハのオルガン曲を一度はナマで聴けば誰もが「あーっ！知ってる」と思うオルガンの代表曲「トッカータとフーガ ニ短調」に、「シン・フォニア(カンタータ第29番「神よ、我ら汝に感謝す」より)」と、曲目にはもちろんバッハの名作を押さえている。加えて今回は、ヴィヴァルディの「ブラジル風」第9番より「フーガ」もあり、多彩な「バッハ」を鑑賞できて楽しい。

終演後の語りまでも醍醐味

終わった後、食事などしながらコンサートの感想を語り合うのも、劇場体験の醍醐味。同じ曲を聴いても感じ方はそれぞれなので、お互い思いがけない言葉が飛び出すなんてことも!? ちなみに、愛知芸術文化センター10階にあるウルフギャング・バックは23時まで営業しているので、終演後でも十分間に合います。また展望回廊を散歩して、そのまま11階から入れるカウナター席は、夜景も眺められて雰囲気抜群。お酒もトクも進みますよ。



オルガン: 山口綾規

45分
500円
※一部指定席

THE オルガンNIGHT 2016
7月20日(水) 19:30
愛知県芸術劇場コンサートホール
※未就学のお子さまは入場できません。

コンサートって、服装にも気を遣います。体温調節ができて、衣ずれの音のしない服で、くだけすぎず…となるとなかなか難しいですね。その点、平日夜のコンサートだと、オフィスカジュアルのまま来られるのでおススメなんです。(広報・マーケティンググループ:松永典子)

Check! 金森さんは昔、平田さん率いる「青年団」の稽古を見学したことがあり、0.1秒にまでこだわる平田さんの演出と、SPACの舞台に通じるものを感じたのだそう。「ラ・バヤデール-幻の国」のずっと前から、実は不思議な引力が働いていたのかも!? (広報・マーケティンググループ:福島尚子)

みんなの歌声が地球を救う!!
声を合わせ、気分はもうオペラの二員

ルイス・キャロルの名作「不思議の国のアリス」の物語やキャラクターを下敷きにした芝居仕立てのコンサートが、昨年の反響を受け、今年は午前と午後の2回公演される。「トルコ行進曲」「カルメン」「さくら」「アヴェ・マリア」「星に願いを」などなど、古今東西の名曲を織り交ぜた音楽尽くしの構成はそれだけでも聴きごたえありだが、今回は幻想的を通り越して意表を突かれるストーリー展開も楽しく、しかもクリエイティブ。

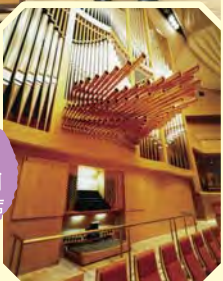
舞台は近未来、地球消滅までのカウントダウンが始まっている世界!? 地球を救うには、曲を作って歌ってエネルギーを注入しなければいけない。みんなが参加しなければ、お芝居は本当にストップしてしまうのだ。かくして、アリスには地球の行方をかけたミッションが待ち受け、会場全体が巻き込まれていく……!!

女子も男子も恥ずかしがってちゃダメ、ダメ。最初は鼻歌ぐらいでいいから、メロディやハーモニー、リズムが生まれてきたら、最後はオーケストラの演奏とともに大合唱だ!!



THE オルガンDAY 2016
7月21日(木)
[幼児向け]11:00 [子ども向け]15:00
愛知県芸術劇場コンサートホール
※0歳から入場できます。
※3歳以下は大人1人につき1人まで、ひざ上で鑑賞できます。

各回45分
500円
※一部指定席



小さな子にこそ大きな音の響きを……

小さい時から、本物に触れてほしい、そう願う保護者の方は多い。そこで愛知県芸術劇場ではパイプオルガンの企画をご用意。このコンサートでは、幼児向けと子ども向けの2回に分けて演奏を披露。国内最大級を誇るパイプオルガンの響きを全身で感じれば、難しいこと抜きに圧倒されること間違いなしだ。

ディズニーの名曲など

ポピュラーミュージックを織り交ぜたプログラムも毎回好評で、会場のみならず合唱することも。また、午後の子どもの回では終演後に見学会があり、希望者は演奏台を間近で見ることができ、鍵盤やボタンの多さにまたまた驚かす。もちろん大勢の人と一緒に何かを体験したり共有したりすること自体、よき学びの場でもあるんです。



子どもと大人、一緒にワクワク!



キャスト&スタッフ丸でアリスの世界へと誘う!

前作に引き続き、有望株・加藤昌則が作曲と編曲を担当。また、あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ「ホフマン物語」での手腕も記憶に鮮やかな栗國淳が演出を手掛け、加藤とともに構成を練りながら、まるで全体がひとつのオペラ作品のように仕立てていく。そこで、歌手だけでなく、指揮の岩村力や愛知室内オーケストラの面々も芝居に絡んでいくから面白い。また、ハンブティダンブティを演じるパーカッションの小林洋二郎がステージに躍動感を添える。



日生劇場ファミリーフェスティバル2016
不思議の国のアリスのクラシックコンサート
「アリスの作曲★大作戦」
8月6日(土) 11:00 / 15:00
愛知県芸術劇場大ホール
S席大人3,500円 S席子ども2,000円
A席大人2,500円 A席子ども1,000円
車椅子席大人2,500円
車椅子席子ども1,000円
チケット発売:6月3日(金)
※子ども料金は、中学3年生以下が対象。
※0歳から入場できます。
※3歳以下は大人1人につき1人まで、ひざ上で鑑賞できます。



ツワモノたちのアート大競演

国際的に活躍するアーティストたちが子ども向けの舞台で本気を見せた。「わかつたさんのクッキー」は、寺村輝夫の同名児童書を原作に、チエルフイチチュの主筆・岡田利規が脚本・演出を担当。現代アートの金氏徹平が舞台美術を、FUMI ROOK FESTIVALなど沸かしてきた前野健太が劇中歌を手掛けるユニークな芝居だ。山本麦子プロデューサーに聞いた。「2014年に評判を呼んだ作品が登場します。前回の横浜公演では、ごっこ遊びのように本当に子ども目線で作られていて、みんな終演後は舞台にかけ寄って興奮していましたよ!」

クリーニング屋の「わかつたさん」がマンションに迷い込み、クッキー作りを体験する物語。会話はポップで、既製品をコラージュした美術もカラフル。つい口ずさみたくなる劇中歌がまた印象的で面白い。



おいしいおかしいおしぼい
「わかつたさんのクッキー」
8月23日(火)・24日(水)
火15:00 / 19:00 水11:00 / 14:00
愛知県芸術劇場小ホール
大人3,000円 子ども1,000円 チケット発売:6月9日(木)
※全席自由。 ※3歳以下のお子さまは入場できません。

舞台がもっと身近に、もっと楽しくなる!

ファミリープログラムには、参加できる企画も用意されている。夏休みの体験学習にぴったりなので、お芝居やおペラを観たことがない人も心配せずに参加を!

まずワークショップは、オペラシアターにこやかに座を迎えて開催。あいちトリエンナーレ2016で上演されることでも話題のモーツァルト作曲「魔笛」を取り上げ、2日通してオペラ制作の過程を

ダイジェストで伝える。歌や演技の稽古だけでなく、道具類の制作なども実践するので、華やかな舞台の裏にも裏にもちょっとずつ触れることができ、楽しい。また、愛知県芸術劇場コンサートホールを見学できる劇場探検ツアーも非日常空間の表と裏を知ることができ、プログラム。ホール内の様々な場所に潜入できて大盛り上がり必至だ。

1,000円
※小学校4~6年生対象
こんにやく座によるワークショップ
オペラ「魔笛」をつくろう!
7月23日(土)・24日(日)
愛知県芸術劇場大リハーサル室

無料
※小学校1~3年生対象
劇場探検ツアー
8月3日(水)
愛知県芸術劇場コンサートホール

※詳細はウェブサイト参照。または愛知県芸術劇場までお問い合わせください。

風が通り抜ける素朴な楽器から コンピュータの音楽が響く不思議

リコーダーの鈴木俊哉とアコーディオンの大田智美。国内外で活躍する両人が、世界初演を含めたプログラムで共演する。リコーダーとアコーディオンの組み合わせからして貴重なコンサートだが、中でも目玉はエレクトロニクスが加わるユニークな新作2曲。企画者であるニンフェール代表・伊藤美由紀と、同じく愛知を拠点とする田中範康がそれぞれ新曲を書き下ろした。

「伊藤さんはサントリーの佐治敬三賞にも輝いた当地を代表する音楽家のひとりで、いつも後ろを振り返らず、新しく走っている姿というのが。田中さんに依頼した新作も含め、今回かなり凝った企画を立てています。リコーダーもアコーディオンも息や風を吹き込まないと鳴らないし、見れば身体を使って演奏していることがよくわかります。そういうアナログな楽器とコンピュータの中で生まれた音楽が合わさった時どんな響きが生まれるかが聴きどころです」と、藤井明子プロデューサーは語る。

音楽あるいは芸術とテクノロジーの関係も現代では見過ごせない問題。このコンサートで音楽の最先端を感じてみて！



伊藤美由紀
(ニンフェール代表)



鈴木俊哉
Photo: Guido Grugnola

大田智美
Photo: Ryoichi Aratani

ニンフェール第12回コンサート
「ReAccord」リコーダー+アコーディオン+エレクトロニクス
6月19日(日) 16:00
愛知県芸術劇場小ホール
一般3,000円 学生1,000円
※全席自由。 ※学生料金は25歳以下対象(要学生証)。 ※未就学のお子さまは入場できません。



地点のアトリエ「アンダースロー」での稽古風景



三浦基

松原俊太郎

他の審査員からも コメント届きました!



篠田千明(演出家)
基さん、稽古場ひやかしにいきますね。松原さん、はじめて書いた戯曲が目の前にたちあがる、その経験たのしいですよ



鳴海康平(「第七劇場」代表)
とまどいが作品を支配していました。松原さんにとって現実と世間の隙間に落ち込んでしまったようなこのとまどいはとても切実だったのだと感じます。実際この隙間の息苦しさは今の日本にとっても慢性的な病。上演を経てこのとまどいがどういう輪郭を持つのか、楽しみで仕方ありません。



羊屋白玉(「指輪ホテル」主宰)
選考は、戯曲の食べ方を学ぶ場でもあったその咀嚼中に、「みちゆき」には、ホールフード(全体食)的な味わいを感じていました。審査会後の帰途、ふと、異国の教典のようだと思境し、このコメントを書く前にもう一度読んで今、なんだか、絵本としても面白いのでは?と、迷想しています。

第15回AAF戯曲賞受賞記念公演

「みちゆき」

9月9日(金)~12日(月)

金土19:30 日15:00 月19:30

愛知県芸術劇場小ホール

一般3,000円 学生1,000円

チケット発売: 6月23日(木)

※学生料金は25歳以下対象(要学生証)。

※未就学のお子さまは入場できません。

Mini Theater Selection 2016

愛知だけのスペシヤルな公演で いまという一瞬が永遠に……!!

コンテンツポラリィダンスの枠を越えて観客を熱狂させてきた伝説的ダンスカンパニー、H・アール・カオス主宰の大島早紀子が6年ぶりの新作を発表する。愛知には8年ぶりの登場で、初の小ホール公演。しかも大島哲学を最も体現できる身分的存在にして超人的ダンサー、白河直子のソロ作品だ。これは世界中のファンがうらやんでもおかしくない。「永遠」や「永遠の世界」を意味する「エタニティ」と題された新作。大島の創作ノートからは、「記憶」(肉体)、「命」といった失われていく有限のものをどこか前向きにとらえ、「記憶と忘却」や「過去と未来」(生と死)といった対立の、あわいに恍惚や畏敬の感覚を呼び覚ませようとする意欲がうかがえる。それは、



Photo: 野波 浩 提供協力: Bacchus



Photo: 小熊崇

H・アール・カオス新作公演
白河直子ソロダンス「エタニティ」
7月1日(金)~3日(日) 金19:30 土14:00 日17:00
愛知県芸術劇場小ホール

一般5,000円 学生3,000円

※全席指定。 ※学生料金は25歳以下対象(要学生証)。

※未就学のお子さまは入場できません。

新人離れ&日本人離れした大型劇作家が登場 驚異の処女作が鬼才の演出でついに開幕する

第15回AAF戯曲賞を受賞した「みちゆき」が愛知県芸術劇場のプロジェクト、劇団「地点」の制作協力で上演される。審査を務め、今回は演出を手掛ける地点代表・三浦基をも驚かせた作者、松原俊太郎はどんな人物なのか。彼の住む京都を訪ねた。

「もともと小説を書いていたんですけど、三浦さんの演出作『ファッツァー』で初めて演劇を体験して、こんなに面白いものがあるのかと衝撃を受けました。それから地点の公演に通い始め、「茨姫」を観た時にAAF戯曲賞の存在を知ったんです。受賞すれば上演されるといのが執筆の動機ですね」と松原。

そして小説を書いていた人間が戯曲を書く。コレが処女作と思えない出来栄えだっ!

読めば読むほどずっと普遍的な世界に思える。三浦の言葉借りれば、不条理劇の金字塔「ゴドー」を待ちながらの系譜に連なるようなドラマツルギーを感じさせるのだ。

「社会全体が絶望的な状況で、どこを見ても酷いことはかりですが、真に受けて絶望することは避けられたので、それを書いて笑える状況まで持っていけるよう努めました。それと何か事件があった時の人それぞれの関わり方が気になっていて、当事者が特権視されることで他の人が関われなかったり、関わりが限定されることに疑問を覚えたことも反映されています。ひとつの出来事を各々の体験として話すことで伝える方法もある」(松原)

「松原さんの戯曲は台詞が豊かで、哲学的内容をも含んでいる。長い台詞の魅力が突出していて、初めて読んだときはチーフホフ劇を思わせるところもありました。そして「みちゆき」は、ずっと淋しがつては「大丈夫?」と言いつつ続けているような作品です」と三浦。

淋しさがどこから来るのかはわからない。舞台上に現れるのは、人や蠅や屍体や声……!? 東日本大震災以降の日本と見る解釈もあるが、

「演劇を舐めんな! という舞台にしますよ。演劇は物語をたぐるものではなく、皮膚感覚のメディアだということを知らしめたいですね」(三浦)

第16回AAF戯曲賞 募集中

第16回AAF戯曲賞の候補作を募集中。
大賞を受賞すると冊子になり、当劇場プロデュースで公演も行われます!
応募締切: 7月31日(日) 必着 公開審査会: 12月11日(日)
愛知県芸術劇場小ホール
※応募方法など詳細はウェブサイト参照。または愛知県芸術劇場までお問い合わせください。



「みちゆき」の戯曲が冊子になりました! 公開審査会のレポート、審査員のコメントなども載っていますので、公演前に読むとさらにお楽しみいただけると思います。1階のアートライブラリーやウェブサイトでも公開中です! (プロデューサー: 山本妻子)



ニンフェールで取り上げるリコーダー。音楽の授業では、正しい指使いやタンギング、なかなか習得できず苦労しました。しかし、今回の演奏は一味違います。「そんなのアリ!?」的な演奏がアレコレ飛び出すので、お見逃しなく。(企画制作グループ: 吉安恵子)

舞台芸術 人材養成ラボ

受講者募集、はじめました
目的・経験別コースあり



愛知県芸術劇場は公演事業だけでなく人材育成にも力を注いでいる。その代表が「舞台芸術人材養成ラボ」だ。主に大きくインターンとセミナーに分かれ、インターンのプログラムは大学2～3年生の受講を想定し、目的の異なる2コースを準備。また、4年以上の経験者を想定した劇場職員セミナーでは各分野の専門性向上を目指す一方、舞台芸術創造セミナーでは最前線で活躍するクリエイターから様々な知識を学べる。

すでにインターンは受講者を募集中。劇場の未来を拓くのはアナタかもしれません！

プログラム



劇場体験プログラム
学生インターン

対象：劇場の仕事に興味がある人
内容：劇場の仕事についてのあらしを学ぶ
実施：7～8月の2～3日間



実践実習プログラム
劇場インターン

対象：劇場や舞台の仕事に就きたいと考えている学生
内容：現場体験を通じて、舞台技術や制作についての基礎知識を学ぶ
実施：1年目＝6～12月の25日間程度／2年目＝通年で10日間程度



技能習熟プログラム
劇場職員セミナー

対象：劇場などの中堅職員
内容：制作・広報・舞台技術の専門性向上を図る
実施：1月に2～3日間



創造制作プログラム
舞台芸術創造セミナー

対象：舞台公演のクリエイションに関わる人
内容：新しい作品創造のために知っておくべき知識や技術を学ぶ
実施：1～3月に2～5日間程度

※申込み方法など詳細は、ウェブサイト参照。または愛知県芸術劇場までお問い合わせください。

藤井明子 プロデューサー 大いに 勧める



愛知県芸術劇場は地域の人づくり・ネットワークづくりのけん引役でありたい。と同時に、私たちも向上心を持って舞台制作を行っていく必要があります。例えば今回の舞台芸術創造セミナーでは、範宙遊泳の山本卓卓さんによる演劇「ゴドーを待つ人もいない」を制作しながら、いろんな領域のスタッフワークも学べます。劇場インターンは、どうしても舞台芸術の仕事に就けるのかわからない人にとって絶好の場。ラボを経験することで、自分の進みたい方向がわかってくるかもしれません。

他 者との接触と継承は、山城作品に通底する。大テーマでありつづけてきた。それは『コロスの唄』（2010/2012年）のように象徴的な仕方でも表現されることもあれば、『うちな一芝居 舞台の美術』（2014年）のように、芸能文化の継承者に取材したドキュメンタリーのかたちで描かれることもある。『後者は砂川敦志との共作』。

大野 雄の伝説的劇場を「再現」しようとするパフォーマーの川口隆夫の試みに密着した『創造の発端—アブダクション／子供—』は、「見ドキュメンタリー」である。しかしその川口の「転写」行為自体、山城自身の関心の転写である。ものを食べる川口の口、映像をうつし取る川口の手の動きが、他物／他者を自らの身体に取り込もうとする行為に対する山城自身の関心を反映する。じつは本作はやがてドキュメンタリーの体裁をかなり捨てて、身体の非個体化、他なる身体との遭遇という抽象的次元を露わにしていく。

本作が従来の作品と大きく異なるのは、「創造／誕生」という主題を強く打ち出していることだろう。鍾乳石とのアナロジーを通して地中に蠢く男（川口）の身体は、産道

のように暗く狭い道を通して、いつしか地上に「誕生」する。継承から誕生へ、主題の大転換が本作のクライマックスをなしているのである。



山城知佳子「創造の発端—アブダクション／子供—」
(2015年、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品)

第20回
アートフィルム・
フェスティバル
2015年11月29日(日)～
12月6日(日)
アートスペースA(愛知芸術文化センター12階)

愛 知県美術館の「ピカソ、天才の秘密」展に連携して、ピカソが20世紀のはじめ、パリのバレエ・リヌスのために舞台装置や衣装を手掛けた作品を中心にプログラムが編成された。殊に、『バラード』が創立50年を迎えた名古屋フィルハーモニー交響楽団(名フィル)の定期演奏会で取り上げられたのは僅か1回、『プルチネッタ』音楽付き全曲に至っては初めてだから、聞き逃さない。

『バラード』は、見世物小屋の前で芸人たちが客寄せに芸をするという筋のバレエで、タイプライターやサイレン、ピストル、福引の箱といった奇抜な楽器が登場、おっとりとした音楽とのアンバランスをオーケストラが面白く描き出した。また、『プルチネッタ』では、ベルゴレージ時代のイタリアの音楽をもとにしたストラヴィンスキーの軽妙な音楽が、編成を小さくしたオーケストラへの指揮者井崎正浩の的確な指示のもと、品よく精妙な響きを立て、ソプラノ高橋薫子、テノール中井亮一、バス鹿野由之も軽やかな歌いぶり。

コンサートは司会や美術館学芸員の話、ピカソやファリヤの関連映像付きで、分かりやすく進められた。洒落た好企画の楽しめるコンサートだった。



愛知県美術館「ピカソ、天才の秘密」展
連携コンサート
「ピカソの見た夢」
3月20日(日・祝)15:00
愛知芸術劇場コンサートホール

Photo: 中川幸作

接触から誕生へ 山城知佳子の『創造の発端』を読む

浅沼敬子(北海道大学大学院文学研究科准教授/芸術学)

シェアした企画、秀演で楽しむ

早川立大(音楽ジャーナリスト)

愛知芸術文化センター
情報誌 AAC

通巻88 2016年6月号

発行：愛知県芸術劇場
(公益財団法人 愛知県文化振興事業団)
印刷：駒田印刷株式会社
デザイン：江利山浩二(KINGS ROAD)
編集：小島祐未子(家鴨の編集舎)



広報・マーケティンググループ：小出 充訓

編集後記

私も十数年前、オペラ公演のインターンを経験しました。初仕事は、100名以上の出演者とスタッフのお弁当注文。白飯がいい、揚げ物はイヤなどの注文に四苦八苦でしたが、いつしか“弁当大臣”と呼ばれるまでに(笑)。劇場では、多くの人が“公演の成功”というゴールに向かって全力で働いています。インターンの皆さんには、そんな“現場”の空気を感じてもらえたら嬉しいですね！そして、お客さまの拍手を聞いて舞台袖で一緒に泣きましょう。



「ピカソの見た夢」の演奏曲は、サティ「バラード」、ビゼー「カルメン」第1組曲より抜粋、ファリヤ「三角帽子」第2組曲、ストラヴィンスキー「プルチネッタ」全曲版でした。斬新な演奏手法に思わずビックリ！ (プロデューサー：加藤愛)

FLOOR GUIDE

開扉：9:00 休館日：第1・第3月曜日(6月は毎週月曜日)、年末年始

- 総合案内
- レストラン
- 喫茶店
- 公衆電話
- AED
- やさしいトイレ
- 赤ちゃんコーナー
- トイレ
- 連絡通路有

12F アートスペースA~H
屋外展示スペース

(11F) 展望回廊

10F 美術館(所蔵品・企画展示室)
屋外展示スペース
ミュージアムショップ

(9F)

8F 美術館(ギャラリー)A~J

(7F)

6F 回遊歩廊

(5F)

4F コンサートホール



(3F)

2F 大ホール



西玄関・南玄関 オアシス21連絡橋 NHKビル連絡口

1F アートライブラリー

正面玄関

B1 小ホール
防災センター



B2 アートプラザ アートスペースX
リハーサル室

オアシス21地下連絡通路

B3 B4 B5 駐車場(アートパーク東海)

INFORMATION



愛知芸術文化センター「メールニュース」登録受付中!
美術館、劇場の情報をEメールで配信中! ウェブサイトからご登録ください。



「愛知県芸術劇場スマートフォンサイト」オープン!

Android端末や、iPhoneなどに最適化したスマートフォンサイトをオープンしました。Google ストリートビューを活用し、「大ホール」の客席、舞台などを360°のパノラマで自由に見渡すことができます。チケット購入の際などにお役立てください。

<http://www.aac.pref.aichi.jp/gekijyo/sp/>



◎愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス
<http://www.aac.pref.aichi.jp>

◎愛知芸術文化センター地下2階プレイガイド
☎052-972-0430 (月曜定休/祝休日の場合、翌平日)

チケット

◎チケットぴあ
の主な取扱先 ☎0570-02-9999 (サークルKサンクス、セブン-イレブンでも購入可)

◎アイ・チケット
☎0570-00-5310 (祝日を除く月曜~土曜 10:00~17:00)

◎名鉄ホールチケットセンター
☎052-561-7755 (10:00~18:00)

*団体割引、車椅子席等については劇場へお問い合わせください。



アクセス

[公共交通機関]
・名古屋市営地下鉄東山線または名城線「栄」駅
下車 徒歩5分
・名鉄瀬戸線「栄町」駅下車 徒歩5分
(オアシス21から地下連絡通路または2F連絡橋経由)

[自動車]
名古屋高速東新町出口から3分

[駐車場]
有料駐車場「アートパーク東海」
(愛知芸術文化センター地下3・4・5階 約500台)



愛知芸術文化センター
AICHI ARTS CENTER

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2
TEL(052)971-5511(代表)
<http://www.aac.pref.aichi.jp>



お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ

TEL:052-955-5506(直通) FAX:052-971-5541 e-mail:mkt@aaf.or.jp

愛知県芸術劇場メンバーズ 登録無料

愛知県芸術劇場
メンバーズって、
なに?

愛知県芸術劇場が主催する公演のチケットを便利にお求めいただけるサービスです。
インターネットで、全国どこからでも、購入可能!
チケットの発売や公演の最新情報をメルマガでお知らせします。

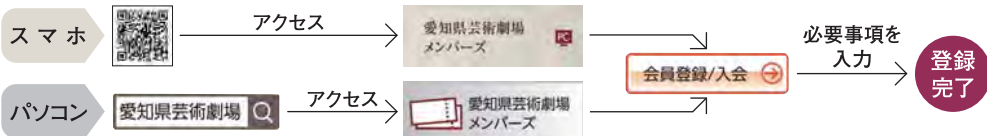
どんないいことがあるの?

- オンラインチケットサービス: 24時間、インターネットでチケットが買える!
- 先行発売: 劇場主催公演のチケットがいち早く買える、先行発売を実施!(一部公演を除く)

- 買い忘れなし: チケット発売直前にはお知らせメールが届くので、買い忘れも回避。
- クレジットカードOK: インターネットならお支払いは、クレジットカード決済もOK。(センター内プレイガイドはカード払い不可)

- 引取りも便利: チケットの引取りは、全国のセブン-イレブンかセンター内プレイガイドにて。
- ポストにお届け: ご希望の方には、主催公演のチラシや愛知芸術文化センター情報誌「AAC」をお届けします。

登録するには?



☆チケットの取扱いは、愛知県芸術劇場の主催公演のみです(一部公演を除く)。会場が愛知県芸術劇場でも、チケットの取扱のない公演がございます。